

2015年2月、矯正歯科専門医院「ひるま矯正歯科」は、 「ひるま OP 歯科・矯正歯科」に変わります



ひるまOP歯科・矯正歯科
院長・矯正歯科責任者

1978年の開業以来、矯正歯科治療により歯をどこに並べれば安定し、美しいのかを考え診療を行い、その答えは父の代からの知識と経験の蓄積で得ることができました。そしてその先にあるものは何かを考えると、歯と歯を支える歯周組織を生涯にわたり健康に維持する事であるという答えに至り、2代目のひるま矯正歯科は歯と歯周組織を破壊するむし歯と歯周病の予防を徹底した矯正歯科治療、矯正歯科治療と連携する一般歯科治療を実践してきました。このような診療システムを長期にわたり確実に維持するためには設備と人と空間が必要で現医院では限界があるため移転を決意しました。私たちは予防歯科を基礎とした医院になるために医院名を「ひるま矯正歯科」から「ひるまOP(オーラルフィジシャン) 歯科・矯正歯科」に改め、今後は矯正歯科を考える方だけではなく予防歯科により歯を守りたい方をすべて受け入れます。私たちは、

- 来院されるすべての方の歯を失うリスクを調べ分析し、わかりやすく歯の大切さ守り方を伝える歯科医院になります。
- 歯を守るための器具が清潔で、設備はブラパシーが保たれて快適で、安心して通える歯科医院になります。
- 生涯にわたり通っていただけるようにバリアフリーの歯科医院になります。
- 予防歯科を実践する衛生士が学び成長し安心して働ける歯科医院になります。

ひるまOP歯科・矯正歯科は皆さんの歯を生涯にわたり守るための医院です。2015年2月、開院します。



ひるまOP歯科・矯正歯科
一般歯科責任者

ひるまOP歯科では移転に伴い、一般歯科も診療ユニットを増設し、担当歯科医2人体制の診療日を増加して、快適に受診していただけることになりました。

当院は2007年に院長が山形県日吉歯科の熊谷先生からOPについて学び始めてからMTMに則った治療を行っています。私も昨

年約1年間かけてOPについて学んできました。OPとは口腔内科医を意味し、むし歯と歯周病の原因やリスクを分析し、外科的に歯を削り修復するのではなく、内科的にむし歯と歯周病の原因である細菌を除去し、歯を強くしてクリーニングや生活習慣の改善で歯が病気になる前の状態を維持します。

具体的には、唾液検査や歯周組織検査によりむし歯と歯周病のリスクを調べ、初期治療によりリスクを下げて、リスクが低い状態をメンテナンスで維持する事を軸に、むし歯と歯周病の予防を最優先に行い、それでも治療が必要になった時には適切な時期に適切な材料を用いて行います。治療後には再発を防ぐためにメンテナンスを継続します。従来のようにやみくもに歯をドリルで削って修復材を詰めることを繰り返していると段々と歯は小さくなりやがて歯を失うことに繋がります。

これからは、ひるまOP歯科で今まで以上に皆さんのお口の健康に貢献していけるようになりました。一生、自分の歯で美味しいものが食べられるように一緒に歯を守りましょう。これからもよろしくお願いたします。



ひるまOP歯科・矯正歯科
Under20の矯正歯科・予防歯科担当

私が担当する「Under20」は20歳以下の患者さんの予防歯科および矯正治療です。生まれてから成人するまでの20年間はお口の中でも激動の変化を繰り返して成長します。その中で矯正治療の適齢期はいつかという一概には答えられません。歯並びやかみ合わせは一人一人ちがいます。顔や体つきが違う

のと同様に、歯の大きさや顎の骨のかたちや大きさも違うので、同級生のお友達と同じ時期に同じ治療が必要かというそうではありません。一般的には乳歯から永久歯に生え変わる混合歯列期の治療(1期治療)を行う場合と、永久歯がすべて生えそろってから行う治療(2期治療)がありますが、最終的なゴールを見据えた上で、最も効率よく確実に治療効果が得られる時期にこそ治療が必要です。矯正治療の目標は大人になったときに機能的にも審美的にも良好なかみ合わせであることで、なおかつその安定した状態が一生維持されることです。良好な歯並び、かみ合わせは見た目だけでなく歯磨きやクリーニングのしやすさにもつながり、むし歯や歯周病予防にも有効です。20歳までにむし歯、歯周病のリスクを低下させ、きれいな歯並びをつくり維持することが将来の口腔内の健康に有利に働くデータからもわかっています。生涯の健康のためのベース作りとなる取り組みをひるまOP歯科で一緒にはじめましょう。



ひるまOP歯科・矯正歯科
一般歯科 むし歯・歯周病担当

皆さんは初診時のリスク検査で、ご自身のむし歯・歯周病のリスクがどの程度なのか、どのようなケアをしないといけないのかしっかり理解していると思います。私自身その大切さを実感する出来事がありました。大学病院で以前担当していた患者さんですが、それまでほとんど無かった虫歯がある時を境に増え始めました。私は唾液の分泌量が激減しているのが気になりお話を伺うと、体調に変化がありお薬の服用が始まったとの事でした。この患者さんの唾液の分泌量、緩衝能、細菌の量などの検査を初診時にはしていなかったため、どのように変化していったのか比較検討する事ができませんでした。もし大学病院も当院と同じようにMTMの流れに従って治療を進めていたら、この患者さんの未来は全く違ったものになっていたのではないかと今でも考えます。むし歯・歯周病になってしまった時にその歯だけを治療すれば、その時は良かったとなりますが、将来の健康を考えると利益は何も残りません。本当の利益は10年、20年後の再発、他部位での発症を防ぐ事です。そのため、リスク診断、予防プログラムの大切さをしっかりと来院されるすべての患者さんに伝え、予防を行い、治療が必要な際には最小侵襲の治療を行います。皆さんの本当の利益に繋がるような歯科医であり続けたいと思っています。